

情勢報告

みんなあで やらんかよ！～「環境制御技術導入加速化事業」説明会の開催



産地・流通支援課職員の説明を熱心に聞く生産者

5月8日、安芸市民会館において、振興センターと県産地・流通支援課、安芸市、JA土佐あきが連携して「環境制御技術導入加速化事業説明会」及びメーカー7社を招いての「対象機器説明展示会」を開催し、74人(内、生産者29人)の参加がありました。

振興センターは本会を企画するとともに、当日は現地実証ハウスでも対象機器の説明を行いました。生産者からは「機器選定の参考になった」「CO₂の局所施用も検討したい」等の声が聞かれ、展示コーナーでは熱心に質問する姿もみられました。

今後も他地区で本事業の説明会を開催し、環境制御技術の導入を広く呼び掛けます。

「次世代型こうち新施設園芸システムモデル事業」取り組み生産者のテレビ取材対応を支援



取材に立ち会う環境制御技術普及推進員

4月28日、「次世代型こうち新施設園芸システムモデル事業」に取り組む安芸市のピーマン生産者が、県の広報番組の取材を受けました。振興センターは、生産者へ取材のための事前説明、関係者への技術資料の配付など広報のフォローアップを行いました。今後も環境制御技術普及推進員を中心に環境制御技術の導入・普及を行うため、振興センターは様々な広報手段を活用して県内の生産者に情報提供を行っていききたいと思います。

JA土佐あきピーマン部会が環境制御技術をメインに視察研修会を開催

←試験ほを見入る
やる気満々の男達

「一言一言を聞き逃すまい！」

JA土佐あきピーマン部会は、5月13日に県農業技術センターへの視察研修会を実施し、生産者11人、JA職員2人が参加しました。

振興センターは視察の内容等のコーディネートを行い、ピーマン・パプリカにおける環境制御技術導入試験ハウスとピーマン類の県育成品種試験ハウスを見学しました。生産者からは、CO₂施用と灌水・施肥との関連性やハウス内資材、低耐温性ピーマン品種の育種状況などについての質問が次々に出され、促成ナスの平畝栽培試験にまで質問が及ぶなど活発な情報収集が行われました。振興センターは今後も、現場の声を研究へ、最新の研究情報を農家へつなぐ活動を行っていきます。

情勢報告

今年もオクラの栽培が始まりました～中芸オクラ部会現地検討会～



「今年は講習会で言いよったように種まきをお彼岸まで遅らせたき、まき直さんでよかったね」

5月18日に中芸集出荷場研究会オクラ部会は今年度初めての現地検討会を奈半利・北川地区で開催し、部員24人が参加しました。

振興センターからは5月以降の追肥時期・量や摘葉方法などの基本技術の徹底と土着天敵利用事例について紹介しました。

J A土佐あきからはエコシステム栽培の登録手続き及び肥料の特性や農薬使用履歴の記帳の徹底について説明がありました。ほ場巡回では、熱心に今後の栽培管理方法等について情報交換を行いました。

振興センターは、今後も現地検討会や勉強会での技術情報提供等を通じて部会活動を支援します。

ハウスユズ出荷検討会の開催



栽培管理について検討中

5月14日、J A土佐あき柚子部北川支部のハウスユズ出荷検討会が開催され、ハウスユズ農家2人の参加がありました。会では、農家のハウス巡回を実施し、作柄状況等を確認するとともに今年度の出荷計画について検討しました。

この中で、振興センターはかん水管理や病虫害防除に関する指導を行いました。以前に比べハウスユズ農家の数は大きく減少しましたが、ユズを周年出荷できる産地を維持するために、振興センターは今後もJ Aと協力し、ハウスユズ農家が安定的な経営をできるよう支援していきます。

土佐文旦の人工受粉講習会を開催



受粉方法を説明

J A土佐あき果樹部吉良川支部は、4月30日に土佐文旦の人工受粉講習会を開催し、生産者7人が参加しました。

振興センターから人工受粉のメリットや受粉方法等を説明した後、実際に受粉作業を行いました。参加者はポンカン主体の果樹農家で、以前は土佐文旦の栽培にあまり手をかけていませんでしたが、講習会も3年目を迎え、人工受粉が慣行技術になるなど、土佐文旦の栽培レベルが向上してきました。

振興センターはポンカン生産者の経営安定を目的に、今後も土佐文旦や小夏など、ポンカン補完品目への技術指導を行っていきます。

情勢報告

きれいなユリが咲くといいな（花育の取り組み）



「やさしく土をかぶせてあげて！」

「これでえい？」

5月14日、JA土佐あき花き部安芸支部は、花育活動の取り組みとして安芸市立井ノ口小学校3年生児童を招き、ユリ球根の植え付け作業を行いました。今年で5年目となり、児童14人、生産者14人の参加がありました。振興センターも参加し、植え付け作業の合間に交わされる質問等に答えながら、部員と子供達とのコミュニケーションづくりに取り組みました。

悪戦苦闘しながら1時間ほどの時間をかけて2,400球を植え付けました。後日、児童と部員による草引き作業などが予定されており、「きれいな花が咲くように、草引きも頑張りたい」と、児童から決意表明もありました。振興センターは、花育活動支援を通して、部会活動の活性化と子供達の農業への関心づくりを行います。

“中芸食のめぐみ満^{まんさい}祭”に出展 ー環境保全型農業をPRー



「ナスのねぎ
みそかけ」
おいしいよ！



新パンフレット「中芸の園芸野菜」

JA土佐あき消費拡大連絡協議会中芸支部は、5月10日に北川村のモネの庭で開催された、高知家まるごと東部博“中芸食のめぐみ満祭”に出展しました。振興センターは、支部会員とともに土佐鷹ナスを使った『揚げナスのねぎみそかけ』と浅漬けを試食してもらい、新しく作成されたPR用パンフレットも配布しました。特に“ねぎみそかけ”は、「ナスが柔らかくておいしい」や「こんな食べ方があるのか」等、大変好評でした。

振興センターでは、今後もJA土佐あき消費拡大連絡協議会と協力し、環境保全型農業のPRと高知ナスの販売促進を支援していきます。

東大野集落営農組織総会の開催



屋外での総会の様子（活動報告中）

田野町東大野集落営農組織の総会開催に向け、振興センターでは26年度の活動実績や決算書の作成支援を行いました。5月3日の総会には27人が参加し、組合長からは「地域から預かった水田1haを栽培し、一部は量販店や田野町の仕出屋に販売したが、大半の米は安値販売となったため、中山間直接支払いから助成を受けた」と説明がありました。

組合員からは「赤字を出さない運営が必要」との意見が出され、27年度は水利費がかからない牧草栽培をすることが承認されました。

今後、振興センターは、集落営農ビジョンの作成支援や組織の運営指導等を行い、継続できる組織の育成を目指します。